

4章 まとめ総括 ～東北地方においてノンステップバス導入が進まない要因等～

これまでの調査や検証結果等から、東北地方においてノンステップバス導入が進まない要因、今後の課題等を以下のとおり取りまとめた。

1. 事業者の脆弱な経営基盤

- ・ 東北管内の事業者の経営事情は全国の中でも厳しい状況にあり、車両購入予算の準備額も低い。このため、現状では高価となるノンステップバスの調達は容易ではない。

2. 補助制度の不十分な活用

- ・ 現行制度においては、自己資金調達面や事務手続きの煩雑さ等で事業者の負担も少なくなく、実績が示すように制度が十分に活かされていない。
- ・ なお、平成 23 年度に補助制度の変更が行われ、申請手続きに係る要件が一部緩和(自治体との協調補助要件の撤廃等)されたことから、今後の制度活用に期待したい。

3. 積雪による運行障害

- ・ 一般に積雪が低床バスに走行上の問題をもたらすことは認められるが、積雪量や雪質の状態によりその影響の度合いは異なる。
- ・ 積雪量の多い地域でも、除雪が行き届いている幹線路線ではノンステップバスが運行している。一方で幹線路線と比べ除雪が進んでいない生活路線(幹線から奥に入った道路等)では、積雪による運行支障が生じており、積雪量に対する除雪処理能力による影響が大きい。
- ・ ノンステップバスは地上高が低いため、ホイールハウス内に雪氷塊が付着しやすく、またホイールハウスとタイヤの隙間が狭く、チェーンの装着走行も容易でないことから、降雪量の多い山間部、郊外等の路線へのノンステップバスの配車は事業者に敬遠されがちとなる。
- ・ なお、ノンステップバス導入の観点からは、必ずしも積雪が決定的要因ではなく、経営事情にもよるが、事業者の考え方や判断の影響も大きい。

4. 中古車市場の未成熟

- ・ ノンステップバスの中古車市場は現在未成熟のため、財務事情が厳しい東北管内の事業者が安価に調達できる中古市場からノンステップバスを購入することは図り難い。
- ・ 全国的には量産型ノンステップバスが出回り始めて 10 年以上経過していることから、今後の首都圏等大都市部からの中古車の流通拡大に伴うノンステップバスの中古車マーケットの形成、成熟が期待される。
- ・ この中古市場の拡充強化策として、首都圏や大都市部でノンステップバスを保有する事業者に対する早期売却のインセンティブにつながるような新たな制度設計も一助になると考えられる。

5. その他ノンステップバスに対する事業者の導入意識等

- ・ 東北管内のバス事業者の経営基盤は総じて厳しい状況にあるが、東北の一部事業者や北海道の事業者にみられるとおり、事業経営者の意識のあり方がノンステップバスの採用、導入に大きく関係している実態の意味は大きい。
- ・ このように事業者の導入方針や取り組み姿勢がノンステップバス導入促進に関わる大きな要因と考えられることから、今後ともノンステップバスの普及促進に向けた啓発、啓蒙活動を地道に継続していくことが重要である。
- ・ その一方で、ホイールハウスによる車内の高位座席や後部の段差フロアーに対する改善等、乗客の車内での着座や移動性の利便性への配慮も必要と考える。